



復刊第123号
題字 吉岡 弥生

みちのくひとり旅

副会長 大原 一枝

総会のこと

さわやかな新緑の季節につづいて日本列島は南から北へと順に入梅を迎え、各地の田植えもあらかた終わつたようです。稲作が機械化された当節では、昔のような手植えの田植え風景はほとんど見られなくなりましたが、それでも大阪から東北までの列車の窓外に展開する早苗田の清しい美しさは、私の眼を終始あきさせませんでした。

本年度の総会は長池博子支部長を中心に会員の皆さまのほか、宮城県女医学会の方々が一団となって準備万端遺漏なく整えて暖かく迎えて下さったおかげで、評議員会、総会、懇親会ともに立派な会となり楽しく過ごさせていただきました。関係各位

に心からお礼申しあげます。

定時総会に關しましては、この私の粗文のあとに、山崎会長の余すところのないご挨拶とともに詳細な議事録がつづきますので、それに譲らせていただきます。

例年総会では、地味ながら着々と前進をつづけているわが日本女医学会の歩みが詳しく報告され、ご同慶のいたりですが、わけても本年度は荻野吟子賞に、かつて国際女医学会を東京に誘致して会長をつとめられ、現在の日本女医学会の国際的な地位を確保された小野春生先生が受賞されたことは特にうれしいことでした。また吉岡弥生賞(学術部門)を受賞された早川律子さんは接触皮膚炎のアレルゲン追及の分野では国内はもとより国際的にも輝かしい業績をあげられ

たほか、門下に立派な女医を数多く育成されたことなどが受賞対象となりました。折悪しく学会で海外渡航中でしたが、本賞授賞式に出席のため急拠帰国、仙台へかけつけられた由でした。

選挙制度(在宅投票)のこと

昨年度千葉で行なわれた評議員会でご提言のあった在宅投票の問題については、本誌百十九号の巻頭言で私は地方会員の要望を代弁した形で、在宅投票賛成の意見を述べました。しかしながらこの問題はあまりにも多くの複雑な問題が絡み、理事会で一年間、真摯に検討いたしました。

その詳細については佐藤副会長が庶務担当副会長責任として本誌百二十二号にメリット、問題点、その他の項目に分けて理事会の検討結果を述べておられるのでご参照下さい。

ブロック別に理事推薦の可能性、理事候補者の年齢制限、年齢別理事選出、理事定員の削減など、取りあげるべき意見も多くありますが、要は、日本女医学会の将来のためにはどんな選挙方法がよいのかを第一義的に考えるべきでしょう。

いずれにしても在宅投票制は地方の会員と在京の会員とが平等に権利を行使できるという大きな利点もあるが、問題点も多いので、軽率に結論を出さないでしばらく静観することになりました。しかしながら世の中はどんどん変化して行きます。世界情勢を見ても、到底あり得ない、

もくじ

みちのくひとり旅	大原 一枝 (1)
第三十五回日本女医学会定時総会	
会長挨拶	山崎 倫子 (3)
定時総会議事録	(5)
各賞と研究助成授与	
吉岡弥生賞受賞に際してお礼のことは	丸木 希代 (6)
吉岡弥生賞をいただいて	早川 律子 (6)
荻野吟子賞を受賞して	小野 春生 (7)
学術研究助成を授与されて	新井 寧子 (7)
学術研究助成を授与されて	成瀬 清子 (8)
学術研究助成を授与されて	本康あき子 (9)
第三十五回定時総会報告記	長池 博子 (8)
観光旅行Aコース	大場 幸子 (9)
観光旅行Bコース同行記	佐々木和子 (10)
懇親会後記	古賀 詔子 (12)
第三十五回定時総会に出席して	桂 敦子 (12)
私の大学(帝京大学)	井尾 裕子 (13)
吉岡弥生賞推せんについて	(2)
荻野吟子賞推せんについて	(2)
第11回学術研究助成のご案内	(5)
第13回学術講演研修会のお知らせ	(7)
理事会議事録	(13)
評議員会議事録	(15)
会員動静	(15)
編集のことと学内支部会員としての感想と	久保田くら (16)
編集後記	小暮美津子 (16)

実現不可能と思われたことが実現してきています。会員のご意向は充分尊重する開かれた理事会ですから、何によらず建設的なご意見があればどうぞ活潑に具申して下さいさるようお願いいたします。

みちのくひとり旅のこと

さて貴重な紙面をいただいで私事を述べることは大いに憚りがありますが、お許しをいただいで、足弱の私のヨタヨタひとり旅の話を聞いていただくことにします。

総会の翌朝早々、大阪でひらかれる関西大同窓会の評議員会に出席のため、空路帰阪せねばならなかった私は総会の懇親旅行に参加できず、その代りに、総会前の一人旅を企てました。新大阪から東海道新幹線、東北新幹線と乗りつき福島で降り、奥羽本線に乗りかえて上ノ山温泉で一泊、翌朝山形経由、仙山線で仙台までという経路をとりました。

旅の目的というのは、かねてから待望していた山菜を旬の時に現地で食べたいと思ったからに過ぎません。JTBを通じて申し込んだ宿が私のこの切なる願いを軽視したのか、奥羽の山中でまぐろといかの刺身、山形牛の朴葉焼きをメインに、山菜はほんの申し訳程度でわらびと細い小さい竹の子だけ、まったくの期待外れでした。

珍しい新しい山菜を現地で旬にという、私とすればささやかな願いでしたが、飽食の時代にアレコレ美味

を追うなという神の戒めであったかも知れませんが、山菜はやはり深い山路を踏みわけて苦勞して採取して、手間ひまかけて自ら調理し、自然の恩恵を感謝しながら味わうべきものなのでしょう。

食べものに関しては期待が裏切られました。このたびの私の無計画なひとり旅には思わぬ出会いがありました。自然との出会いのいろいろに加えて斎藤茂吉記念館を訪ねたこと、そこで数々の眼福に恵まれたことでした。

まず、奥羽本線の車窓に迫る山壁のあちこちにはたくさんの藤の長い花房が、高い木々の枝からふんだんに垂れ下っていて目を惹かさせてくれました。上ノ山温泉の宿の近くには沢庵禪師の草庵であった春雨庵の遺跡がひっそりと残されておりました。また葺葺屋根の武家屋敷跡の庭園は、古い歴史を物語る荒れ庭でしたが、亭々とそびえる松や榎の木の下には青い苔に混ってあじさいやかきつばた、いわかがみ、わたすげ、しゃがの花のほか、ペゴニアやマーガレット、セラニウムなど、和洋の花々が色とりどりに一せいに開花して、一面に咲き乱れていました。

この風情は、大阪の花博で見た大量の花が移植されて人工的に作られた整然とした花壇とは、まったく味わいを異にする美しさでした。みちのくの気候風土が花にのちを与えているのか、どの花も色鮮やかに息づいていました。数年前に仙

台で政宗公の母堂の廟所近くの路傍に群生していた水引草の紅が周囲の雑草の緑の中にくっきり鮮やかに浮かんでいたことを思い出しました。関東の方が洛北辺りへ来られても同様の印象をうけられるのかも知れません。他家の花はとかく赤く見えるものでしょうか。

上ノ山に一泊、翌朝駅へ向かう途中のタクシーを方向転換してもらい、斎藤茂吉記念館を訪れました。山形路へ来るまではまったく予想もしなかったことでした。聞けばこのあたりは茂吉の出身地で、記念館は宿から車で七、八分の所にあつたのです。まったく予期せざる出会い、ハプニングでした。

蔵王連峰を真正面に望み、後方遙かの空には残雪の残る出羽三山が陽光に輝やいて見える丘の頂上で茂吉の歌碑を眺め、明治天皇東北巡幸の際の小休所の建物や、茂吉が晩年書齋として使っていた建物の移築されてあるのを見たのち、開館直後の人気のない記念館に入りました。さだめし名ある建築家の設計に成ると思われる立派な記念館には、多くの遺影、遺品とともにおびただしい墨跡、原稿、手紙の類が展示されているのをゆっくり鑑賞して、われわれの同業の先輩でもある偉大なる歌人を偲びました。

記念館をタラタラと五分ほど降った所に、単線の奥羽本線が走る小さな無人駅北上ノ山駅がありました。ここから山形へ出たのち、近郊の立

煮をほぼぼ下り山口を下りました。ところがうれしいことに途中、本坊の前庭で素晴らしい木に出会いました。高さは二メートルあまりですが、およそ四畳半くらいの広さにとりしりと枝をはった珍しい木が目にとまりました。目のさめるようなすすみどりの色の肉厚の針葉がぎっしりと茂っていて、説明を見ると樹齢七百年の伽羅木でした。手入れもよいからでしょうか、枝のはり方、葉のつき方など、若々しく力にみちいて

て、すぐ傍らに樹齢四百年の松の樹がありましたが、この伽羅木の立派さには及びませんでした。本場に圧倒される思いでした。人の老いもかくありたいと感動しました。小学校の時から体操や遠足が苦手で、その上ここ数年老化が加わりましたので歩くことがまた一段と不得手になった私が、山菜につられて出かけたみちのくのひとり旅でした。山菜には恵まれなかった代りに、ヨタヨタと歩いた各地で思いがけず美

しい風景や花々、名木など出会うことができました。斎藤茂吉記念館など、全然予定にない、偶然に導かれた出会いでした。あれもこれもみんな日本女医学会の総会が機縁となった出会いでした。私のよろこびをお裾分けしたくて、拙文をつづりました。最後に、茂吉の数ある蔵王の歌の中から一首
夏されば雪消わたりて高嶺と
あかがねいろの蔵王の山
茂吉

第三十五回日本女医学会定時総会

会長挨拶

会長 山崎 倫子

本日は、全国津々浦々から多数の会員をお迎えして、第三十五回日本女医学会総会が開かれますことはご同慶の致りでございます。

昨年の千葉県での総会では、千葉県支部の皆様が大変お世話になりましたが、今回は、長池博子先生はじめ宮城県支部の先生方の団結したお力によって、また素晴らしい総会が開かれますことをありがたく感謝申し上げます。ご出席が若干減りましたが、ことは本当に残念でございますが、



山崎会長

吉岡弥生賞推せん

平成二年吉岡弥生賞授賞の適格者を、本会理事または支部長宛にご推せん下さるようお願いいたします。

締め切り期日は本年十二月二十五日まででお願いします。

なお次の書類を添えて、ご推せんをお願いいたします。

- 一、自筆履歴書
- 二、業績
- イ 医学に貢献した現会員。
- ロ 社会に貢献した現会員。
- 三、推せん理由

荻野吟子賞推せん

平成二年荻野吟子賞授賞の適格者を本会理事または支部長宛にご推せん下さるようお願いいたします。

締め切り期日は、本年十二月二十五日、候補者の経歴、業績と推せん理由を記載し、推せん者の氏名、捺印をもつて提出下さい。

石寺(通称山寺)へまいりました。このお寺は芭蕉の有名な句、閑かさや岩にしみ入る蟬の生の生まれた所で、険しい山肌によくの伽藍が点在して参詣人が杖を

ついて登っていましたが、坂が急な上、階段が千段余りということで私をおまわりを断念しました。登り口を少し許り上った所の茶店で名物のお団子の形をしたこんにやくの醤油

プラザホテルで研修会を開催、早稲田大学名誉教授、本明寛先生の「創造する心」と題する講演を伺いました。多数のご参加を得て、学ぶところ、考えさせられることも多く、有意義な会でした。

先ほど受付でお渡しいたしました資料の中に、「女医の診察室から、62のHealthy Talks」という小冊子が入っておりますので、ごらんいただいたかと思いますが、これは、ある日突然、保険新報社から依頼がありまして、事業部が中心になって執筆し、発行の運びに至ったものでございます。初めての試みでしたが、

幸い好評を得ております。これは健康保険組合が被保険者およびその家族に給付する健康ガイドブックで、市場に売られるものではありません。わが日本女医学会の新規事業として、これも一つの業績になるかと思っております。

また、昨年度は、先ほど報告がありましたように、性教育ということに関心をもちまして、講談社から発行の「幸福な性」という本をお書きになった会員の松本文絵先生にお願いして、大阪で初めて公開講演会を行ないました。今年度に入り、四月七日に、この時は日本女医学会並びに福岡市主催、国際ソロプチミスト福岡後援ということで同様の講演会を開催、会場は満席になり、大変好評だったことをご報告いたします。このような活動は、医師として、女医として私たちが社会に還元できる

たしました。

早川律子先生は、昭和三十八年三月、名古屋大学医学部を卒業なさ

丸木希代先生は、昭和十九年に東京女子医専を卒業になられました

次に、荻野吟子賞ですが、これは、元日本女医学会理事、小野春生先生

後に国際会長に選出されまして、一九七六年には国際会議を日本で開催

小野春生先生はまさに荻野吟子賞に該当する方と存じます。

さて、第十回学術研究助成は、現在、東京女子医科大学第二病院耳鼻科

人材バンクの設立も登録を待つばかりとなりまして。登録していただく

を得てから、お申し込みをいただくというように準備を進めております

次に、昨年総会において、在宅投票についてのご発言があり、検討

度ここで説明させていただきます。メリットとしては、一、全会員が

次に、在宅投票の問題点としては、一、知名度の高い候補者ほど当選

る確率が高い。一、同窓会員の絶対数の多い程有利となる。

これに対する結論は当然会員の意志によって決められるもので、理事

また変更する場合、選挙細則改正案の作成、手続き、臨時評議員会、臨

する義務が生じますが、これまた相

現在、大学卒の会員の増加がめざましく時代は大きく変革しつつあり

ご承知のように、日本のODA(世界開発援助)の金額は世界第一位

で、その他も無駄の多いことが、新聞、テレビ、その他で指摘されて

てまいります。今回の国際会議は一九九二年三月、中米のグアテマラ

(会計監査報告) 山崎倫子 監査の結果適法かつ正確である

第11回学術研究助成のご案内 会員の学術研究に対し助成事業を行なっております

一、助成の趣旨 医学分野の発展向上を図り、後進の研究助成を目的とする。

定時総会議事録

日時 平成2年5月26日(土) 場所 仙台国際ホテル(仙台市青

吉岡弥生賞基金会計 石川文字 国際女医学会記念事業基金会計

(渉外部) 野沢良美 国内および国際交流

(2) 助成期間 一年を原則とする。同一人が重ねて申請する場合は、三年以上の

入会継続三年以上経過した日本女医学会会員で個人、またはグループ

社団法人日本女医学会総会開会に際し 会員数 一、八六五名

以上について配布済みの資料にもとづき報告。 二、国際連絡書記報告

日本女医学会(追加再版)編集 丸山美実 機関紙の発行

(3) 応募方法 本会所定の用紙に、黒インキまたはワープロで記入。

平成三年五月開催の日本女医学会総会の席上。 平成四年三月末日までに研究経過報告(B5原稿用紙三枚)と助

報告 一、会務報告および事業報告 南雲君代 配布済みの資料にもとづき報告。

一、平成元年度一般会計収支計算書 青井禮子 配布済みの資料にもとづき報告。

第3号議案 平成二年度一般会計収支予算案 二村美英江

(4) 申込期間 平成二年十二月二十五日必着

平成三年五月開催の日本女医学会総会の席上。 平成四年三月末日までに研究経過報告(B5原稿用紙三枚)と助

- 川支部のいづれかで開催
— 原案どおり可決
- 表彰
- 一、吉岡弥生賞受賞者
丸木希代、早川律子
 - 二、荻野吟子賞受賞者
小野春生
 - 三、学術研究助成金授与者
新井寧子、成瀬清子、本康あき子
- 閉会の辞
小俣喜久子

各賞と研究助成授与

吉岡弥生賞受賞に際しお礼のことば



埼玉支部 丸木 希代

杜の都仙台で身に余る吉岡弥生賞を戴きありがとうございます。

昭和十五年東京女子医専入学、昭和十九年九月卒業後、同校小児科医局に入局し、約十年に亘り直接吉岡弥生先生のご指導を受けましたので、今回の受賞は感無量で胸が一杯でございます。

日本女医学会の先生方の中にはもっとと社会福祉にご活躍の方がたくさんおられますのに、私を受賞と伺い恐縮に存じました。受賞は私だけでなく、一緒に仕事をしております二百

人余の職員とともにありがたく戴きました。

私が小児科、主人が精神科で精薄の仕事を始めましたのは、児童福祉法施行の前からで、この恵まれない子供たちの純真な心に惹かれ四十余年となります。日本も豊かになり、子供たちへの処遇も年毎に良くなりましたが、幸少ないこの子供たちに、少しでも楽しい日々が送れま

すよう努力しております。また一九六五年にチベットより二十一人の子供を日本に招き、小学、中学、高校、

大学と、それぞれに教育をし、現在医師二名、看護婦十名が結婚し日本で働いており、帰化した人もおります。その後、韓国、フィリピン、バングラーディッシュ等からも多くの人たちを迎え、看護婦となり帰国いたしました。現在は中国山西省より医師

吉岡弥生賞をいただき



愛知支部 早川 律子

ロンドンのパービカンセンター内の国際臨床皮膚科学会の会場は、パネルの質疑応答セッションが終了し、会場のあちらこちらで討議の続きや久しぶりの再会を喜び挨拶がなされ緊張のほぐれたほっとした雰囲気だだよっていました。協同研究者の松永医師に後を託して、学会場のざわめきを背に地下鉄の駅に急いだ私の頭はすでに、明後日に控えている日本女医学会の総会のこと一杯になっていました。五月十五日に日本を出発してストックホルムでの国際接

触皮膚炎研究班のシンポジウムと国際会議、そしてロンドンでの国際臨床皮膚科学会と忙しい十日間の旅でした。ストックホルムでのシンポジウムは、私が国際接皮膚炎研究班の日本代表委員となって初めてのシンポジウムで、市内を見物する時間

（女医もおります）、看護婦が半年から一年交代で研修に来ております。これからも健康の許すかぎり、社会福祉にささやかながら民間外交に努力してゆくりつもりであります。

賞はずしりと重く、その伝統と權威がひしひしと感じられます。ともに努力した協同研究者たち、数々のご指導をいただいた先輩たち、苦情を言わずに私に仕事をさせてくれた夫と子供たち、これらの人々の協力がなかったら、この吉岡弥生賞は今の私の手の中にはあり得ません。受賞のお祝いの言葉をいただくたびに、感謝の気持ちが溢れてきます。

このたびの受賞に際し、同門の男性の先輩諸氏が大変喜んで下さったことは何より嬉しいことでした。名古屋大学医学部皮膚科学教室の女医第一号として私を入局させた当時の先輩たちは、はたして女医が一人前の皮膚科医としてうまく育つか心配されたに違いありません。その私が栄誉ある吉岡弥生賞をいただいたというだけで、わがごとくのように喜んでいただけました。

伝統ある吉岡弥生賞を励みに、またその名に恥じないよう、今後も教育・研究・診療に励み、日本女医学会の繁栄に少しでも役立ちたいと念じております。

荻野吟子賞を受賞して



目黒支部 小野 春生

このたび日本女医学会より、光栄ある荻野吟子賞を下さるというご通知をいただいた時は、言葉がないほど驚きました。なぜにただのかかわりませぬ。国際女医学会で何かお役に

立ったとするならば、それは皆様協力して下さったからでございます。決して私一人がしたわけではございません。したがって皆様を代表していただいたつもりでございます。

第13回学術講演研修会のお知らせ

日時 平成2年11月17日(土) 午後三時半
場所 京王プラザホテル(東京都新宿区)

吉岡弥生賞受賞者講演

「色を見分けるメカニズム」

東京女子医大 第一生理学教授 橋本葉子

「接触皮膚炎」

名古屋大 皮膚科学講師 早川律子

懇親会 会費 五、〇〇〇円

※ 詳細は後日ご案内いたします。

学術部

東京会議の折は大変お世話さまになりました。感謝しております。あれからもう十数年、月日が過ぎるのは速いものでございます。その後国際女医会員はもろろんのこと、お子様、ご親類、お友達、時にはお友達のお友達が次々と紹介されて東京にいら

がらご一緒に東京見物におつれしたり、時には自宅におとめしてお世話をしております。お陰様でお友達が多くなりました。私は江戸で生まれましたが、長年米国におりましたので少々バタ臭い所がございますが、私の一番のモットーは「朋友相信」じという教育勸諭のお言葉でございます。お互いに信すれば世界は平和になります。たまたま外国から見て日本はいやな国に見えても、友人が日本に一人いればそれほどいや

学術研究助成を授与されて



東女医学内支部 新井 寧子

このたび日本女医学会研究助成金をいただくことができ、心よりお礼申し上げます。

三年前に東京女子医大第二病院の耳鼻科に助教としてまいりました。何をやるにも、時間とお金とマンパワーが必要です。万人に平等に与えられた時間はつきよくは自分で作

るものです。ここでまず感じたのは、研究費を少しでも集めたいということでした。教室ピラミッドの頂上にいる教授を助けるという立場になつて初めて、人のために時間とお金を何とかがして工面するのが人の上に立つ人の仕事だと知りました。いまさら考えるまでもなく、医師という職

業は、その一年目から多くの「○○○○」の人々の上に立たねばならないのですから、医師免許を受けて二十年にもなつてようやく自覚したのかと驚かされるでしょう。が、そのような教育はされず、自覚のなきを指摘されることもなく過ぎてしまったのは、いかに世の中が女医を甘やかしてきたか、言い替えば私が一人前として扱われてこなかったかという事で、私もそれに甘えてきた事を反省しています。

現在、お金と時間とマンパワーを最大限に出し合つて少しづつ仕事の成果が上がります。具体的にもうします。チューリッヒでサルの温度眼振反応を三次元すなわち眼の水平・垂直・回旋性のうごきを見て記録する方法を見て一つの発見ができました。温度眼振反応というのは、耳に水を入れると目が回つて、他覚的には眼がリズムカールに左右に動くという現象で、古くから、めまいの検査に利用されている反応で、外側半規管の感受性を示すものとして知られているものです。三次元眼球運動記録法は世界で数カ所で行なわれていないのですが、これによると、温度眼振は半規管ばかりでなく、耳石器の機能をも示しているのだということを見いだしたので、これに併行して、ここ第二病院で臨床的にデータをまとめており、現在「めまい外来」の大きなテーマとなつて進んでいます。眼が左右・上下・回旋性に三次元に動くことがで

きるといふ事実は、同時に、内耳が頭の動きを三次元的に捉える仕事をしているということ、さらに、内耳はそのために都合がよいような三次元構造を持っていることを調べることにつながります。これはそのまま、ヒトの体を三次元構造として理解する、つまり、手術解剖の理解に直接役に立ちます。こうして「めまい外来」グループの研究手段が、外科の一分野である耳鼻科医の共通に利用



東女医学内支部 成瀬 清子

このたびは、日本女医学会学術研究助成を授与していただき、まことにありがとうございます。最近、日本人により新しい生理活性物質の発見が続いており、今回、助成の対象となりました。『エンドセリン』も筑波大学の真崎、柳沢両先生らにより発見され、世界的にも大変注目されており、本物質は血管内皮細胞から分泌され、強力な血管収縮作用を有することから、高血圧その他各種疾患における役割が示唆されているのですが、その詳細は未だ明らかではありません。私たちは、本物質の臨床的意義を明らかにするため、特異的かつ高感度のラジオイムノアッセイ、mRNA 同定のための cDNA hybridization 法を開発し、さまざまなアプローチを行なっております。また本物質は私の専門分野である内分泌や高血圧のみならず、多様な疾患での役割が示唆されているので、循環器内科、腎内科、母子センター、糖尿病センター等の各専門分野の諸先生方にもご指導、ご協力を得、幅広く研究を展開しつつあり、結果の一部は、六月末にカナダのモントリオールで開催される第十三回国際高血圧学会にて発表するとともに、年末に筑波で開催される第二回国際エンドセリンカンファレンスでもいくつかの発表を予定しております。

学術研究助成を授与されて

このたびの研究助成金で、平面的なCTなどの図形を入力して立体構造を組み立てるプログラムを導入することができました。医局のみんなが日本女医学会によるサポートを受けていることになりました。お礼を述べさせていただきます。これからは引き続き若い女医に、これからは引き続き若い女医に、エンカレッジして下さるようお願い申し上げます。

第三十五回定時総会報告記

宮城支部 長池 博子

約二年前に、仙台市で総会を開催してほしいとの要望を受けて、宮城県女医学会の総会でお引受することに決定して以来、昨年の千葉の総会には若い女医さんたちも積極的に参加して下さってまずは今回の心構えができたわけでした。宮城県女医学会は、会長一名、副会長一名、理事若干名(現在七名)、監事二名、という構成で運営に当たり役員会と例会を隔月に行っております。役員は毎月顔を合わせることにあります。第三十五回評議員会並びに総会本部からの指示によって毎年五月の最終土、日に決まっております。今年も五月二十六、二十七日、会場は仙台で一番新しいホテルをとることにして、当時まで建築中であった仙台南国際ホテルの一番に予約いたしました。出席数を約二百人として準備に取りかかりました。毎回役員会で骨子をねり、まず総務をはじめとして細部にわたって各部の責任者を決めました。会員全部が何らかの役目を受け持つように配り、当県の会員からは出欠に問わず協力費をいただくことにし

て、昨年暮からは役員会と例会は総会準備を兼ねて行ないました。一月の日本女医学会会報にご案内を掲載していただきましたが、何せお忙しい先生たちのことゆえ、締切期日まで予定の立てられない方もいらっしゃるようです。締切日をお忘れの方もおいでになり、また予定変更や取り消しなど会の前日まで訂正作業が続きました。しかし会員みんなの願いが叶って会期中快晴に恵まれたことは何よりも幸せでした。午前中の評議員会は開催支部県の長池が議長の名を受け、ホテル側で慌てるほど順調に早く終わりました。評議員皆様のご協力のお蔭と感謝いたしました。午後からの総会では、山崎会長の国際的実績を踏まえ、先見性のある視野の広い挨拶がありました。当日手伝って下さった若い女医さんの中には日本女医学会未入会員もおりましたが、女医会の内容を見直した方もあったと思われました。議事に入って議長団、日高、中村マサ、一戸の三先生のもと、特別な異議もなく、本部提案の議題が順調に進行し、承認されました。

続いて表彰式が行なわれ、吉岡弥生賞には「医学研究に貢献した」部門で皮膚科学の早川律子先生、「社会に貢献した」部門では埼玉の丸木希代先生がそれぞれ受賞されました。早川先生には二年前に「産婦人科に関連する皮膚病について」講演を伺い、非常に分かりやすく即参考になったことを思い出しました。丸木先生は埼玉医大内にある「心身障害児施設」で愛情をもった献身的なお仕事ぶりを知っているだけに、また東南アジア、中国からの留学生教育の陰の功労者としてのご努力を知っているだけに、よくぞ適切な方々を選ばれたと心から拍手をおくりました。また萩野吟子賞の小野春生先生はあいにくご欠席でしたが、日本女医学会を代表して早くから国際女医学会の理事、副会長を歴任され、日本で開催された国際女医学会の会長としてその成功を取られたパイオニアとして適任者だと思えました(詳細は議事録を参照されたい)。受賞者からそれぞれのご挨拶があり、コーヒーブレイク三十分の後、特別講演に移りました。演者の西沢潤一先生は現在は東北大名管教授、(財)半導体研究振興会、半導体研究所長でいらっしゃいます。が、昨年の秋、一番お若く現役の東北大学教授として文化勲章を受賞された先生で、「ミスター半導体」光通信の開拓者として高名な方であり、演題は「これからのエネルギー」という問題でしたが、地元でも

ところで、私事ですが、私が大学を卒業して約十四年が過ぎました。その間、医師としての臨床、研究の二足のわらじから、主婦(？)、母親という三・五足のわらじをはくようになり、毎日の生活にもがきながら、今日に至っております。この中で、私が現在まで研究を続けられたのも、家族や周囲の諸先生方、特に当科の前教授鎮目和夫先生や現教授出村博先生のご理解、ご協力と、そして女医としての諸先輩方の多方面からのご支援があったからで、心から感謝

学術研究助成を授与されて



静岡支部 本康 あき子

いたしております。今回、日本女医学会の研究助成をいただきました事は、その栄誉はもちろんの事、諸先輩方に支えられているという大きな安心感をも与えていただいたと思っております。今後、微力ながらも女医として、臨床、研究に励み、今回の受賞にこたえるべく、さらに頑張ろうと心を新たにいたしております。なにとぞ今後ともよろしくご指導、ご鞭撻下さいませようお願いします。本場にありがとうございます。

このたびは、学術研究助成を受けることになり、たいへん光栄に思っております。通知をいただいた時は、信じられませんでした。驚きと喜びでいっぱいでした。かつて、女性における神経症患者の背景にあるストレス等について、簡単な報告はして参りましたが、いずれも未熟で不十分なばかりでした。方法的にも不備な点が多く中途半端に終わっていました。そんな中、こうした研究を再び行なうことができる機会に恵まれ、幸運であると思えます。

まだまだ臨床経験も浅く、勉強不足の面が多々あり、これからよりいっそうの努力を必要としますが、せっかくの良いチャンスですので全力を尽くしてがんばりたいと考えております。最後に、日本女医学会に感謝するとともに、今後の会の発展と活動に期待いたします。

観光旅行Aコース

宮城支部 大場 幸子

翌日の観光は、Aコース(おくのほそみち・松島日帰り)とBコース(角館・田沢湖・八幡平一泊二日)とも、担当の会員が時間を割いて実際に下見をしたコースなので、自信をもってご案内できた次第でした。(詳細はA、Bコース報告参照)

宮城県女医学会会員一同第三十五回総会を無事に終了することができました。心から感謝申し上げます。行き届かない点は三日間のお天気に免じてご寛容下さい。

厳粛にかつ和やかに第三十五回日本女医学会総会も無事終了し、翌五月二十七日日曜日は待望の観光旅行です。遠来の先生方を歓迎するかのような、まさに聖五月の空でした。奥の細道探訪奥松島嵯峨溪周遊の日帰りAコースは総勢56名二台のバスに分乗し、前日の会場仙台南国際ホテルを定刻八時三十分に出発。まず芭蕉の歩んだ道筋に従い、榴ヶ岡―釈迦堂―宮城野附近と車を進め、仙台市東部の岩切今市橋を渡り、「おくのほそ道」紀行文の題名となった東光寺附近の利府、十符の里に通じる細い道筋を眺めながら多賀城市に入り、約千三百年前に国府、鎮守府として築かれた政府跡に立ち、築地塀に万葉の防守を偲び、固い蕾のあやめ園を窓外にして東北

歴史資料館を見学、俳聖「疑ひなき千歳のかたみ...涙も落つるばかり也」と感動した多賀城碑(壺の碑)の閉ざれた格子戸を横に見て通過、三天玉川の一つと古歌に詠まれた野田の玉川附近より塩釜市の街並みを抜け、新緑のトンネルをくぐり松島三天壯観の一つ、双観山より海に浮かぶ初夏の島々を展望し、ホテル大観荘で郷土料理の昼食です(海鮮・帆立貝...)。次は瑞巖寺拝観です。深い杉木立を左に、石の崩れかかった洞窟に修行僧を偲び、豪華絢爛な大伽藍の粹をつくした桃山美術に酔いしれ、時間の経つのも忘れるほどでした。午後二時いよいよ今日の本命とも言べき奥松島の周遊です。就航間もない真白な船内に胸を躍らせて乗



東北大学西沢名誉教授



日本女医会第35回定時総会

山崎会長のあいさつ

総会及び記念講演

総会グラフィック

観光旅行Bコース同行記

宮城支部 佐々木和子

第三十五回定時総会も無事終了し、私は気分も新たに、世話役の一人として観光旅行Bコースに同行させていただいた。二十七日朝、ほぼ定刻にホテルを出発。高速を一路北進、盛岡郊外の手作り村へ。幸い天気は上々。若干のキャンセルはあったものの、総勢四十四名と予想を上回る参加者に、バスはおおむね満席の状態。幹事も思わずニンマリ。どの顔も、総会をこなした安堵感や、地元での人目から離れて同業者同志という解放感からか、伸びやかで明か

る。さつそく、簡単な自己紹介をお願いしたが、先生方のお年を感じさせぬ活力溢れたご日常を耳にして、驚嘆と同時に、若輩の身としては大いに身の引き締まる思いを禁じ得なかった。最初の目的地手作り村では、記念撮影後は自由行動、先生方、早くもお買い物が熱が入った様子である。近くの熱温泉で昼食を摂った後、今回観光のメインの一つ角館に向かう。時間は十分とはいえなかったが、規模が手頃なため、見所はある程度消

り込みました。瑞巖寺境内の冷気に触れ、薄暑の街並を闊歩した後の海上は燦々たる陽光と心地よい涼風に歓迎され快適な気分です。ほどよく冷えたサンケン茶で松島名物の「こうれんせんべい」や、「三色団子」に舌鼓をうち、桂島、石浜、朴島、寒風沢等浦戸諸島の人々の生活に思いを馳せ、仁王島、弁天島、毘沙門島、裸島等々洋上に点在する無人島の数々を心ゆくまで探賞し、島一面の松の緑に心洗われる想いでした。外洋に出た船はいささかの揺れもなく紺青の空の滴りかと紛う海の蒼

さに感激は倍増、大自然の織りなす雄大な壮観に息を呑むばかりでした。嵯峨溪の名称は京都の嵯峨野の溪谷に似た美観に感激して護良親王が名付けられたと聞きます。凝灰岩の亀裂にしっかりと根を張った松の太木、岩壁に浮き彫りにされた日本地図等等。短い日帰りの旅ながら、海の蒼、空の蒼、山の緑を十二分に満喫して日頃の疲労を大自然の中に洗い流し、同じ職業を持つ人々との交流を胸にあため、存分に明日への鋭気を養い実りある有意義な一日でした。

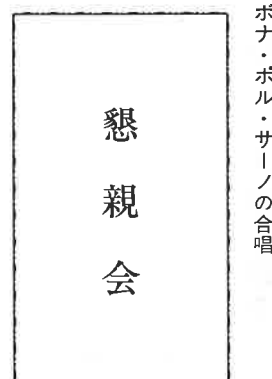
化され、それなりにお楽しみ下さったものと思つ。定期的に満開の枝垂桜に彩られた武家屋敷通りをご覧いただけなかったのは至極残念ではあるが……。田沢湖畔のプリンスホテルでは、コース中唯一の洋式サービスのもと東の間のコーヒータイムを楽しんだ。ここはロケーション抜群で、芝生の庭のすぐ向うは、折からの夕陽にきらめく紺青の湖、なかなか絵画的で美しい。周辺の辰子像廻りを見物、散策した後は再び車上の人となり、この夜の宿泊地、乳頭温泉に向つた。宿の部屋割りに関しては、寺田先生と長池先生の長時間にわたるご腐心の甲斐あって、特に問題もなく一安堵。部屋の規格はさまざまで、中にはご不満の向きもありであったろうが、一人としてそうした素振りを見せられることなく、幹事の顔を立

て下さった。一同大広間に会しての夕食時には、アルコールも結構入り(地元冷酒にも人気があった)、楽しい会話が飛び交い、また小出先生、日高先生、長池先生、添乗の酒本氏等の隠し芸も披露されて、雰囲気は大いに盛り上った。翌二十八日、好天に恵まれ、八幡平は玉川、後生掛両温泉の地獄を徒歩で巡った。後生掛散策路は起伏に富んで、少々体力を要したが、予想以上に多数の先生方が最奥の大湯沼に足を伸ばされたのは驚いた。この泥火山の景観には満足された方

が多いようだ。近くで山菜と鴨鍋の昼食をいただいた後は、一気に残雪の八幡平頂上を目指す。今年は春の訪れが早かったゆえか、残雪は極端に少ないとのこと。頂上からは、雪原を前景とした岩山手の雄姿を余す所なく遠望できた。ここからはこの旅の解散地盛岡へひたすら下るのみ。高速に入る頃になると、車内は滅法静かになる。二日間のお疲れがどつと襲いかかったに違いない。一時、局地的大雨にも遭つたが、盛岡では再び晴天に戻り、ここでお名残りを惜しみながら、大部分の先生方と別れた。さて、下検分はその目的上、必死にあら探しをし、さまざま不満や心配を抱いたものであるが、いざ本番となると、逆に少しでも気分良く願うせいか、現実には与えられた条件内で、まあ、こんなものでしょうと大方を許せる気分になってしまふ。おかしなものである。それにしても、日頃贅沢にお過ごし

の先生方が、何の不満も洩らされず、特別な要求など何一つなさらず、またご自分の体力を控え目に評価されて、おの行動を規制されるのには感服した。そして、いかにも職業人らしく時間を厳守されたのには、同業者として誇らしく、ありがたく感じている。裏方の仕事ぶりも頼もしく、ユニークであった。長池先生秘書の藤原さん、心遣いが実に細かく、仕事は洗練されていてスピーディー。東日

本ツーリストの酒本氏、要所要所を十二分に押さえて無駄のない添乗ぶり。ご自分の出番の判断が絶妙で、「ひたすらタンマリ」から、堂々たる説明、雰囲気しいでは余興の手伝いまで――さすが小さいながら(失礼)一城の主の貫禄十分であった。ドライバー及川氏、慎重、確実、控え目ながら、決して愛想を忘れない方。ガイド萩原さん。彼女という所の、教養と栄養に満ち溢れた。先生方に應ずることなくのびのびと接し、人間、根は皆同じとばかり、普段周囲から大切にされている先生方を軽口の着に、地方人の素朴さ、人なつこさ、若干の無礼さをもユーモアに包んで、楽しい案内役を努めてくれた。先生方にとってはたぶん珍らしい扱われ方で、くすぐったくも新鮮と受け止められたのではなからうか改めて拍手喝采である。ともかくにも、この小旅行、大いに楽しくそして食中毒、怪我等おぞましい事故もなく、無事打ち上げに至った。それもひとえに、長池先生の良きリード、ご参加諸先生のご協力、それに前述裏方の努力の賜物と深く感謝する次第である。一流とは申せぬ観光コースではあったが、私自身は、先生方のリラクックスのお手助けくらいにはなり得たことと勝手に思い込んでいる。最後に、調子者の私としては、大先輩方に対してさまざま失礼を働いたに違いない。その辺り、紙面を拝借して心からお詫び申し上げたい。



ボナ・ボル・サーノの合唱



歓迎 日本女医会第35回定時総会懇親会



長池先生の歓迎のあいさつ

観光Aコース



観光Bコース

懇親会後記

宮城支部 古賀 詔子

東北大学名誉教授西沢潤一先生の格調高い講演の後、三十分の休憩を持ち、二十四名の出席の下に懇親会が催されました。宮城県女医学会長長池博子の挨拶「懇親会のテーブルの席割りは、一番の苦勞でありました。……」に続いて日本女医学会山崎倫子会長、宮城県知事、西沢潤一先生、宮城県医師会沖津貞夫会長各位のご挨拶があり、最後に「医師会理事にも女医の参加を切望する……」との千田典夫宮城県医師会副会長の挨拶もいただきました。乾杯は大先輩であり、広島県よりご来仙いただきました長尾スミ子先生で、「みんな元気で動けるうちはこの会に参加しましょう。」のご発声のあと、モ・エ・シヤンドンのシャンパンで会食はスタートしました。低く、莊重なBGMの下、三陸の海の幸の取り合わせのオードブルに入って程なく、国際交流の一環としてお招きしたお隣の中国からの女子留学生八人からもスピーチをいただいたところ、主催者に対し花束のプレゼントもありました。食事は緑アスパラガスのポタージュへと進んでいき、各

栄えであったかと思えます。ボナとともに懇親会出席者全員による「夏の思い出」の大合唱を行ない、三品房子宮城県女医学会副会長の閉会の挨拶をもちお開きになりました。全国よりお集まりいただきました先生諸姉には、二時間余という短時間の懇親会ではありましたが、十分なご歓談ができましたでしょうか。お食事にも、アトラクションにもご満足いただけましたでしょうか。全員で歌

第三十五回定時総会に出席して

杉並支部 桂 敦子

五月二十六日(土)、初めての東北新幹線で仙台国際ホテル二階の会場に定刻十分前到着。天井の高い広間は、満員である。白布の掛かったテーブルの上に、一卓二個ずつ、透明なプラスチックの蓋をしたコップがおかれていた。透明な蓋に感激して一気にな水を頂戴、蓋は大切に戻した。総会は定刻に開催。会長挨拶に始まり担当理事の諸事務報告、会計報告は肅然と進行、各賞、研究助成の授与が行なわれ、参加会員の協力もあり、正確に平和裡に総会終了。予定より早く終わり、次の講演との間に一時間の休憩がとれた。紅茶

とクッキーのサービスを受けながら全国から集まられた先生方は旧交を暖め、新しい交流が始まり、華やいだ交歓が行なわれた。会場前ロビーに特設して下さったお土産店で、名産の品々を選び発送していただく先生方。一時間は瞬間に過ぎ、正確に午後四時より講演に移る。半導体研究の世界的権威、東北大学工学部教授西沢潤一先生の「これからのエネルギー」を感銘深く拝聴。超満員の盛況であった。ドレスアップされて懇親会に移る。高橋千明さんの司会で主催者宮城県女医学会会長長池博子先生の歓迎のご挨拶、日本女医学会会長山崎倫子、来

賓として宮城県知事本間俊一郎、仙台市長石川亨、東北大学名誉教授西沢潤一、日本医師会副会長沖津貞夫、仙台医師会会長堀田康哉諸先生のご挨拶、東北大学医学部に留学中の中国の女医先生八名をご招待しておられ、代表者のご挨拶があり、国際交流の実を眼のあたりにした。乾杯に続き懇親の宴に移る。三陸の海の幸、仙台牛等新鮮高級な土産の素材でお心入れのフランス料理に口福を味わい、大いに語らい、ボナ・ポール・サノ(宮城県女医学会コーラス同好会)(健康のために始めた女医学会のサークル。週一回練習を積み十周年記念コンサートも終えたばかり)の美声とハーモニイに酔い、「夏の思い出」を全員で合唱、整然と和やかに華やかに、明日への力を貯え定刻に宴を閉じた。

主催者の長池先生の大らかに暖かく、緻密にして抜群の指導力と、それにもまして、一国一城の主たる宮城県女医学会の先生方の一糸乱れぬ團結した行動力、本部、宮城の事務局の方々の内助の功に、心からの敬意と感謝を申し上げる。多くの先生方のご入会を得て、日本女医学会のますますのご発展をお祈りする。

私の大学「帝京大学」

豊島支部 井尾 裕子

四年制大学としてのスタートは、昭和四十一年に設立された経済学部文学部を始めとし、現在では、医学部、薬学部など多くの学部が増設され、総合大学として発展しています。また、関連する組織として、帝京技術科学大学、女子短期大学、医学技術専門学校、保母幼稚園教員養成所、高等看護学校があります。学園の建学精神に「努力をすべての基とし偏見を排し幅広い知識を身につけ国際的視野に立つて判断のできる日本国民を養成することを目的とする」と掲唱されているように、英国のロンドン学園(海外帰国子女のための付属の中等部、高等部)、帝京コレツトハイツ大学(米国コロラド州)、セラム帝京大学(米国ウエストバージニア州)など海外にも学園が新設されています。また、平成二年には、科学研究者、技術者を養成する目的で理工系の西東京科学大学が新設されました。医学部は、本年で創立十九年をむかえ、キャンパスは東京の板橋区にある本学部内にあります。医学部付属病院は板橋区に約千三百床、付属溝口病院(神奈川県川崎市)、付属市原病院(千葉県市原市)に各三百床あり、地域の医療サービスに貢献しています。

帝京大学総長先生は、「ご自身も医

師で、現在産婦人科の教授で在られます。最近では、医学部の定員の約三割が女子です。女医学会の国際書記でご活躍中の藤井先生は、当大学の薬理学主任教授でも在られ、現在医学部には、五名の女性の教授、七名の助教授が活躍中です。昨年、国際女医学会ヤングフォーラムに参加させていただく機会に恵まれました。この席上、各国での大学内の女医の地位が話題になった際、ドイツでは女性の医学部教授はいないとか、韓国では基礎分野には、女性教授がいるが臨床分野ではほとんどいないという話を耳にしました。わが帝京大学では、総長先生のご夫人もご姉妹も医師ということもあり、女医にも積極的に大学に残り研究する機会が公平にあるように思います。私が所属する産婦人科学教室でも、研修医の頃に、当直の深夜女性三人で子宮外妊娠の手術をしたことを覚えています。新設大学ですの外科学分野では、まだまだ女医の数は少ないのですが、最近では、少しずつ入局者も増えているようです。帝京大学は、まだ歴史の浅い新設医科大学ですが、総合大学としての広い視野から、科学研究の面で発展していくと信じています。

理事会議事録

日時 平成2年3月24日
場所 日本女医学会 会議室

- 出席者 山崎、大原、小保、佐藤、石原、久保田、佐野、白橋、二村、野沢、野本、橋川、橋本、藤井、丸山、青井、明石、荒木、石川、石津、稲生、尾中、小出、小暮、白浜、関口、中濱、南雲、野呂、平瀬、福永、森田、八木、添田、西山、山口
- 欠席者 三好、柴田
- 八木理事 庶務報告
- 2月24日・常任理事会および事務所検討委員会開催
- 2月28日・会費長期滞納者六〇名に納入依頼と所属支部長に通知
- 3月3日・日本医師会新会館披露に山崎会長出席(礼状あり)
- その他 (1)津島雄二氏より厚生大臣就任挨拶あり
- 連絡事項 一、第四二回婦人週間について(労働省)
- (1)第四二回婦人週間実施要綱
- テーマ 女性の能力や役割についての固定的な考え方を直そう

期間 平成2年4月10日〜16日

(2)第四二回婦人週間全国会議概要
日時 平成2年5月18日(金) 午後1時〜4時
場所 千代田区公会堂

二、婦人週間記念講演会について(東京都婦人情報センター)
日時 平成2年4月10日(火) 午後2時〜4時
場所 東京都婦人情報センター
場 所 東京都婦人情報センター
演 題 「女の時代」というけれど
演 者 山下泰子(国際女性の地位協会常務理事)
三、東京都婦人情報センター平成元年度展示事業について
テーマ 先駆者たちの肖像
期間 平成2年3月1日〜4月15日
場 所 東京都婦人情報センター
ロビー

老いても輝くために(高齢者の地域ケア) 山崎倫子
「性」から「生」へ 松本文絵
各支部長に年金加入について依頼する。
(学術部) 橋本常任理事
ワークショップについて
日時 平成2年7月28日(土)
テーマ 腫瘍の診断・治療の新しい動向
演者候補 布山繁美、後藤節子、堀野信子、斎藤明子
第一三回学術講演研修会について
日時 平成2年11月17日(土)
吉岡弥生賞受賞者による業績発表を予定。
(国際女医学会) 藤井国際連絡書記
(国際女医学会費一、八〇八名分(一、一一三、四三八円)送金。
国際女医学会第四回西太平洋地域会議について
(1)参加日程および費用(株アイシーエス企画より)
Aコース(会議出席のみ) 8月27日〜9月1日 二九八、〇〇〇円
Bコース(会議後、メルボルン) 8月27日〜9月3日 四〇八、〇〇〇円
Cコース(会議後、ニュージーランド) 8月28日〜9月6日 五五八、〇〇〇円
(2)演題提出予定者、山崎倫子先生
一、平成二年度事業計画案および予

Table with financial data: 算案について, 各部より提出された要望額について, 検討し決定. Includes items like 学術部, 講演研修費, 研究助成費, etc.

Table with financial data: 営繕費, 弔慰・見舞費, 顧問料, 租税公課, 火災保険料, etc.

理事会議事録

新井寧子(埼玉支部) 成瀬清子(東女医学内支部) 本康あき子(静岡支部) (6)事務職員木下佐知子退職挨拶

評議員会議事録

日時 平成2年5月26日(土) 場所 仙台国際ホテル(仙台市青葉区中央三丁目一七)

議事録署名人選出

野村多賀子、関根みよ 野村多賀子、関根みよ

Table with financial data: 算案について, 各部より提出された要望額について, 検討し決定. Includes items like 学術部, 講演研修費, 研究助成費, etc.

Table with financial data: 収入の部, 雑収入, 2.年金手数料, 9.〇〇〇,〇〇〇円

評議員会議事録 日時 平成2年5月26日(土) 場所 仙台国際ホテル(仙台市青葉区中央三丁目一七)

議事録署名人選出 野村多賀子、関根みよ 野村多賀子、関根みよ

入会会員(敬称略) 東女医学内支部 齊藤明子 物故者(敬称略) 岩手支部 畠山芳子

編集のことと学内支部会員としての感想と

東女医学内支部 久保田 くら

本号の支部よりは、広報委員会の企画では、ある地方に依頼することになっていて、ところが予想外にお断わりをいただいた。早急に思いついて、筆の速い他地方にお願いしたら、これまたお断わりであった。

本号は立派に格調高く行われた仙台での総会の記事で豊富な内容の会誌に出来るにちがいないと思いついて、割りつけてもらった。ところが、相当の字数を埋めねばならぬ破目になった。編集の学内にいるもので埋める以外にないし決心した。

学内支部だよりを書くにしても、本来ならば支部長に相談してのことにするのが望ましい。きわめて急いで書くことも、相談なしのいわば独走的な行動もともに苦しいことではある。

委員が交代で書いている編集後記は、いつもなら残りの「スペース」をそれに当てる。前号はスペースがなかったが本号は、本号に盛りこんだ予定の内容を予定どおりに掲載するために、相当の余白をご迷惑ながら後記にしまった。後記のスペースがないお詫びより、このたびのような場合の方が申しわけない事お

びただしい。本紙の内容がなるべくならば「ニュース」でありたいと希望する編集の当然の責任として今後もしつかりやりたいものと思う。さて、学内支部の昔ばなしをかくことにする。

私が日本女医会員になったのは、昔昔である。

当時、吉岡弥生先生が本会の会長であられた。学内には、佐藤や先生、三神美和先生、佐藤イクヨ先生、中西清子先生、大村ひさる先生、窪敦子先生方がおられ、若いものには大先輩のおすすりにより総会にはとにかく出席したものである。シブシブの感がないでもなかった。入会について強くすすめられた覚えはなく、甚だ自然に入会したと記憶する。

後日、私が、まあ、いわば「もの心」ついた頃に、佐藤イクヨ先生が至誠会は卒業して即至誠会員になるのは当然であるし、永久に会員である。しかし、日本女医学会も会費で運営する点では同様である。とにかく会員が多数でなければならぬのだといわれ、母校の卒業試験の最後の終了時間をのがさずその場にゆかれ、至誠会のこと、東京女子医科大学雑誌のことなどの詳細をきかせた上で、

日本女医会入会をしっかりと取りつけておられた。毎年変わることなく一貫したご意見で日本女医会にしておられた。

ある時期、学内においてそんなに大層に入会をすすめる事はない、との主張をはじめたお二人の会員がいた。他にもいて発言しないのかは知らない。その声を先生にも伝えた方がよろしいかと考えて、一度話したことがあった。その折も、決して全員の利にならぬとして耳を傾けられなかったのはありがたかった。

私はそのとき、いきおい余るその主張に、いや、学内支部はきつと会のお役にたつことがあると抵抗した

集記 編後

第35回日本女医会定時総会は、長池博子先生はじめ宮城県支部の方々のお骨折りによって盛会裡に無事終了したようで何よりのことと関係者各位に厚く御礼を申し上げる次第である。

かく申す私は、岡山での眼科学会とちよほど重なり、出席できなかったが、編集委員の特権として会員の皆様より一足先に会誌に目を通すことができる。したがって総会の模様や雰囲気は手に取るように伝わり、繰り返し読んで、校正を何度かしているうちに、すっかり自分も参加

覚えがある。これは私にとって印象深いことであった。

現在の学内会員も日本女医会に害をおよぼすことはけっして有り得ないと思える。

ただ私も学内の人間を永くつづけており日本女医会学内支部というものは会に対して、必ずお役にたつと豪語しているのではあるが、東京女子医大の学内の一員であることを逸脱してはならぬときびしく自制していた。何事にも一歩踏みとどまるようにしていた。どこに所属し、生きているのかをよく考えねば限度を外した行動になる。学内支部会員の古手として昔ばなしをさせて頂いた。

したような錯覚におちいつてしまっている不思議なものである。

ところで、わが日本女医会の総会と云えば、働く女性の中では最も良識のある女医の全国大会である。これに参加できなかった私にとっては果して何が定まり、どのような討論がされたのか、何か建設的な意見や提案はなかったものか、また千葉の総会で幾人かの会員から出された役員在宅投票による選挙について今回ほどのような反応があったのだろうか等等、非常に気懸りであった。このようなことを念頭において、ざっと目を通したが、それらしき記載は何も見当らず肩すかしを食った感じがした。

「日本女医会を単なる親睦団体に終らせたくない」という会長挨拶に

もあるようにこの際、真剣に日本女医会の在り方や将来を考えてみなければならぬように思う。担当支部の懸命な努力とお力添えのお蔭で会員相互の交流や親睦はすでに十二分に果たしているように思える。総会は日本女医会の在るべき姿、将来をじっくり考えるには千載一遇の機会である。せっかくなので全国津浦浦から有能な会員が大勢集まるのである。年一回のこの機会を逸してはならないように思える。

われわれが社会に対して貢献できることと云えば、医師としての立場女性としての立場を利用するほかに方法はない。その活動を介して社会的に日本女医会の存在感をたかめ、魅力ある会に盛り立てて行きたいものである。

そして、マンネリズムにおちいらないうためには、物事を変えて新しいものを取り入れて行く努力も常に必要ではなからうか。執行部に求められることは勇気ある決断力である。

(小暮美津子)

平成2年7月20日 印刷
平成2年7月25日 発行
編集人 久保田くら
発行人 日本女医会
発行所 東京都渋谷区渋谷2-1-8
17 青山宮野ビル
社団法人 日本女医会
TEL (498) 〇五七
1 5-16 (815) 六六六一
株式会社 金剛出版